



わが進明

校訓 明るく・正しく・たくましく

学校だより 第2号
令和8年5月29日
福井市進明中学校

開校記念式典 5月1日（金）

開校記念式典では、学校に保管されている「沿革誌」や「卒業文集」などを参考に、進明中学校の歴史や伝統について、校長から全校生徒へ話をしました。



開校：1947年（昭和22年）5月1日

学校名：開校当時は「福井市第四中学校」。その2年後に、進放小学校の「進」と道明小学校の「明」を組み合わせ、「福井市進明中学校」と改称されました。

生徒数：開校時は397名（現在は326名）。最も多い時期は1,735名（昭和37年／34学級）でした。

校章：平和の翼を大きく広げ、世界に羽ばたいてほしいという願いが込められています。

校歌：開校から9年後の1956年に完成。当時は混声三部の合唱曲でした。

【現在につながる出来事】

1952年（開校5年後）：湯川秀樹博士から本校にメッセージをいただく。

（自分と、そして自分とよく似た少しだけ違う他者と、幸せな社会を築くことの大切さ）を説かれました。）

1991年：「ひとりみんなのために みんなはひとりのために」の看板が、体育館南側の外壁に設置される。

2020年（令和2年）：生徒会活動から「挨コンタクト拶（アイコンタクト+挨拶）」や「ほっこリアクション（ほっこり+リアクション）」という言葉が生まれる。

「伝統」と似た言葉に「学校文化」があります。これは生徒たちにも教職員にも、長い間大切にされてきたものです。本校で言えば、まさに「あいさつ」がそれにあたります。現在は「挨コンタクト拶」や「ほっこリアクション」といった言葉も生まれていますが、「自分と、そして周りの人を大切にする」という姿勢は、湯川博士からメッセージをいただいた開校当時から現代まで脈々と受け継がれてきたものです。この先何十年も、これが進明中学校の誇る「学校文化」であり続けることを願っています。



小中合同あいさつ運動 5月19日（火）20日（水）

進明中学校区の出組として、気持ちの良いあいさつができるようになることを目的に、小中合同のあいさつ運動を行いました。当日は、本校の生徒が校区の小学校を訪問し、小学生と一緒に元気なあいさつを交わしました。

共創

つながる×つくる

1学期生徒総会・学校祭色決め集会 5月1日(金)

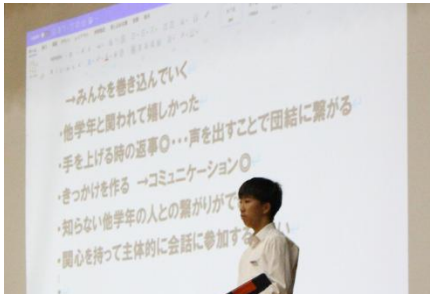


1学期の生徒総会では、執行部と各委員会の活動について全校生徒で審議しました。事前の質問だけでなく、その場で疑問に感じたことを自発的に質問する生徒の姿も見られました。

また、「繋がり」を大切にしたいという執行部の企画では、誕生日や出席番号で構成された縦割りグループ（普段とは違うメンバー）で会話を交わし、生徒間の仲を深めることができました。



縦割りのグループでの話し合い



集会の振り返り



トランプの柄でチームが決定！

学校祭に向けた縦割り活動を開始するにあたり、生徒総会後に「色決め集会」を行いました。

まず、縦割りグループ（学年の組み合わせ）を決めるために「巨大神経衰弱」を行いました。各学年で4枚の巨大トランプから1枚ずつ選び、同じ絵柄を引いたクラス同士がひとつのチームとなります。その後、「借り人競争」を行い、その勝者から順に色くじを引いて、最終的なチームカラーが決定しました。

組み合わせ決定！

	赤	青	黄	緑
1年	A	D	C	B
2年	4組	2組	1組	3組
3年	1組	3組	2組	4組

同窓会講演会 5月15日(金)



本校の同窓会が中心となり、毎年講演会を開催しています。今年は第47回卒業の同窓生による企画で、FBCアナウンサーの酒井拓海さん(65回卒)と坂田茉世さん(67回卒)を講師にお招きし、全校生徒にアナウンサーのお仕事についてお話しいただきました。酒井さんは、坂田さんが1年生のときの3年生にあたり、お二人とも進明中学校の先輩です。

講演では、アナウンサーの仕事に誇りを持ち、失敗を経験に変えながら日々奮闘されている様子を語っていただきました。また、進明中在籍時の学校祭や部活動のエピソードもお話しいただき、とても楽しいひとときとなりました。最後に、生徒たちへ「好きなことを見つけてチャレンジしてほしい」という温かいメッセージをいただきました。

また、同窓会より熱中症(夏の活動)対策として、冷風機6台をご寄附いただき、寄贈式も執り行いました。

大切にさせていただきます。本当にありがとうございました。

